

鉄鋼概況

主要鉄鋼原料価格 大幅値上げ

鉄鋼エコノミスト 左近司 忠政

四月末の普通鋼鋼材国内在庫（メーカー・問屋段階）は前月比一・七％増、在庫率は同一九・九ポイント増の一・二七・九％と上昇した。五月粗鋼生産量は、前年同月比一・五倍と七カ月連続で前年同月実績を上回った。五月の輸出（全鉄鋼ベース）は前年同月比六七・〇％増の三五七五〇〇〇トンで、五月として過去最高を更新した。BHPピリトン、リオ・ティントの英豪系資源大手二社は、国内高炉大手に七〇九月期の鉄鉱石価格で前期比約二三％増の値上げを通告した。国内高炉大手はトヨタ自動車や電機・OA機器メーカーとの鋼材価格の改定交渉にて大筋で合意した。JFEスチールは、西日本製鉄所福山地区で二〇〇九年二月から休止中の第三高炉を拡大改修することを発表した。五月の世界粗鋼生産（六六カ国）は、前年同月比二九・一％増の一億二四一八万トンとなり、七カ月連続で前年同月実績を上回った。二〇〇九年の鉄鋼メーカーの粗鋼生産（連結ベース）ランキングが発表され、アルセロール・ミタルが二〇〇六年以来の一位を維持する一方、中国メーカーが躍進し二〇位中九社を占め、他方で日本勢はいずれも前年よりランクを下げた。



◆五月鉄鋼輸出、月間最高

鉄鋼連盟が発表した四月末の普通鋼鋼材国内在庫（メーカー・問屋段階）によると、前月比八万一〇〇〇トン（一・七％）増の四八二万七〇〇〇トンと二カ月ぶりに増加に転じた。在庫率は前月末比一九・九ポイント増の一・二七・九％と上昇した。また、四月末の普通鋼鋼材流通

在庫は、鉄鋼連盟が行なった全国市中鋼材数量調査によると、前月比〇・六％減の二五四万八〇〇〇トンとなった。四月の販売量は前月比三・六％減の二五九万四〇〇〇トンとなったために国内在庫率は前月比二・九ポイント上昇して九八・二％となったが二カ月連続して一〇〇％を下回った。

主要品種の在庫状況をみると、薄板三品（熱延・冷延・表面処理鋼板）の四月末国内在庫（メーカー・問屋・コイルセンターの合計）は、前月比八万一〇〇〇トン増の三四九万八〇〇〇トンと二カ月ぶりに増加した。ゴールデン・ウイークの影響などでメーカー在庫が増えたものだが、メーカーでは「ほぼ適正圏内」を維持しているとみている。また、主要建材商品であるH形鋼の五月末の全国流通在庫は、新日鉄系の建材特約店組織である「ときわ会」の調査によると、前月末比一万四三〇〇トン、七・九％増の一九万六四〇〇〇トンと二カ月連続で前月を上回った。在庫量は減少したものの、連休による稼働日数減に加えて二〇三月の仮需の反動で出庫が大幅に落ち込み、在庫の増加につながった。

鉄鋼連盟が発表した五月粗鋼生産量は、前年同月比一・五倍の九七二万七〇〇〇トンとなり、七カ月連続で前年同月実績を上回った。アジア向け輸出が相変わらず好調だったほか、国内の製造業向けの需要も堅調に推移したことで年率換算一億一千万トン強の水準に達した。前月比では七四万一〇〇〇トン（八・二％）増となり、一日当たりの生産量は三一万三八〇〇〇トンで、四月に比較して約一万四〇〇〇トン多かった。

財務省が発表した五月の鉄鋼貿易統計によると、輸出（全鉄鋼ベース）は前年同月比六七・〇％増の三五七万五〇〇〇トンとなり、五月としては二〇〇二年の三二二万四〇〇〇トンを上回る過去最高を更新した。輸入は同

二・三倍の六一万七〇〇〇トンと五カ月連続で前年を上回った。国別輸出では、最大向け先の韓国・台湾などのアジアNIEs諸国向けが一三二万一〇〇〇トン（前年同月比三四・八％増）、ASEAN向けが一〇四万四〇〇〇トン（同一・六倍）、中国向けが六〇万五〇〇〇トン（同三二・六％増）と、主力のアジア向けがいずれも好調だった。アジア以外では米国向けが一四万二〇〇〇トン（同一・五倍）、中東向けが九万八〇〇〇トン（同一・五倍）、EU向けが二万九〇〇〇トン（同一・二倍）、ロシア向けが一万七〇〇〇トン（同一・八倍）と前年の低水準もあって、いずれも大幅に増加した。国別輸入では、アジアNIEsからが三三万五〇〇〇トン（同一・〇倍）、中国からが一三万三〇〇〇トン（同一・一倍）、ロシアからが二万四〇〇〇トン（同四・四倍）だった。

◆主要鉄鋼原料、七〇九月価格大幅値上げ

英豪系資源大手二社（BHPピリトン、リオ・ティント）は、日本高炉大手に七〇九月期の鉄鉱石価格を前期に比較して約二三％増のトン当たり約一四七ドル（本船渡し）に値上げすることを通告した。二四半期連続の値上げで二〇〇九年の価格と比較すると二・四倍になる。ブラジルの資源大手のヴァーレも近く同水準の値段を提示する見通しとなっている。七〇九月期の原料炭（強粘結炭）の価格については、前期に比して一二・五％高いトン当たり二二五ドルで、高炉各社は英豪系資源大手と

表－1 2009年の世界粗鋼生産ランキング

		(単位:100万トン)			
順位	メーカー	国名	09年	08年	
1	(1) アルセロール・ミッタル	ルクセンブルグ	73.20	103.30	
2	(6) 河宝北鋼	中国	40.24	33.28	
3	(3) 武鋼	中国	38.87	35.44	
4	(7) 宝钢	中国	30.34	27.73	
5	(4) 新日鐵	日本	29.53	34.70	
6	(2) 日本製鉄	日本	27.61	36.88	
7	(9) 山陽製鋼	日本	26.39	23.30	
8	—	—	26.38	—	
9	(5) JFEスチール	日本	26.28	33.80	
10	(8) 新日鐵	日本	21.90	24.39	
11	(16) 鞍鋼	中国	20.13	16.40	
12	(22) 首钢	中国	17.29	12.19	
13	(12) センテック	アメリカ	16.74	19.21	
14	(15) USスチール	アメリカ	15.28	16.30	
15	(10) 馬鞍山鋼	中国	15.23	23.22	
16	(18) 武鋼	中国	14.83	15.04	
17	(11) SAIL	インド	13.50	19.60	
18	(20) ニューコ	インド	12.69	13.66	
19	(13) 湖南華菱	中国	12.68	18.20	
20	(24) 住友金属工業	日本	11.81	11.25	
23	(19) 神戶製鋼	日本	10.81	13.88	
48	(37) 日新製鋼	日本	5.94	8.12	
78	(66) 日新製鋼	日本	3.07	4.04	

(注) 順位のカッコ内は前年順位。

正式合意した。二〇〇九年に比すると約七四％高い。日本の高炉各社と資源各社は、二〇一〇年度から原料価格を従来の通年固定から四半期ごとに改定する方式に短縮することで合意したが、上記の値上げで上期の原料コストは鉄鋼業界全体で九〇〇億円程度増加すると見られる。

◆高炉大手、トヨタと鋼材価格上げに大筋合意

上述の原料価格の値上げに伴って、高炉大手はトヨタ自動車と鋼材価格の改定交渉に入っていたが、このほど大筋の合意を得た。まず、契約期間について従来の通年固定から高炉大手は四半期ごとの改定を要求していたが、四半期のコスト変動を反映した形での半期(四、九月)契約で合意した。鋼材価格については、二〇〇九年度価格からトン当たり一万九千円強の引上げという形で二年ぶりの値上げで合意をみた。値上げ率は冷延鋼板が約二五％でトン一〇万円前後となる。乗用車は一台当たり一トンの鋼材を使用しており、今回の値上げは車一台につき二万円弱の鋼材調達費用の上昇につながる。

その他の分野では、高炉大手と電機・OA機器メーカーとの間で行われてきた価格交渉で、四、六月期についてトン一万五千円程度の値上げで決着した。現在両者は七、九月期の原料コスト上昇を受けた追加値上げについて協議を進めている。また造船メーカーとの間で四、九月期の造船用厚板の紐付き価格交渉が進められており、

同三五％増の五六一四万トンと大幅に増加したほか、日本(同五〇・二％増)やEU二七(同五一・二％増)、米(同七三・八％増)と前年実績を大幅に上回った。また、前月比では二・一％増と二カ月ぶりに増加し、二月に続いて月間最高を更新した。しかし、日産量では一・二％減と五カ月ぶりに減少し、製鋼操業率も八二％と四月の八三・四％から低下した。これまで実需の回復に加

トン二万円を軸にした値上げで最終調整に入っている。

◆JFE、粗鋼三三〇万トン体制へ

JFEスチールは、西日本製鉄所福山地区で二〇〇九年二月以降休止中の第三高炉を拡大改修することを発表した。工期は二〇一一年一、五月で投資額は約二九〇億円としている。今回の改修で、福山第三高炉の炉容積は三二二三³mから四三〇〇³mに拡大する。福山地区では二〇〇八年から約五〇〇億円を投じた製鋼能力の増強工事が完了しており、二〇一〇年四、五月に一連の増強設備が稼働した。第三高炉の拡大改修が完了すれば、西日本製鉄所の粗鋼生産能力は福山地区一三〇〇万トン、倉敷地区一〇〇〇万トンの計二三〇〇万トン(現状二一五〇万トン)になる。

JFEは東日本製鉄所でも約一六〇億円を投じて製鋼能力の増強を進めており、二〇一〇年度内に完了する見込みである。これにより同製鉄所の粗鋼生産能力は現状の九〇〇万トンから一〇〇〇万トンに拡大する。各製鉄所の設備増強により、二〇一一年五月には全社の粗鋼年産能力は三三〇〇万トンになる。

◆五月世界粗鋼生産、一億二〇〇万トン超

世界鉄鋼協会のまとめた五月の世界粗鋼生産(六六カ国)は、前年同月比二九・一％増の一億二四一八万トンとなり、七月月連続で前年同月実績を上回った。中国は

えて、二〇一〇年に入って原料高を受けて鋼材価格上昇の中、仮需を含めて見掛け需要が増加し生産回復を後押ししていたところ、ここにきて主要市場で鋼材市況が軟化に転じ、需給立て直しのために欧米では減産に転じる動きも出ている。

◆二〇〇九年粗鋼ランキング、中国勢躍進

英国の金属専門誌「メタル・ブリティン」は、二〇〇九年の鉄鋼メーカーの粗鋼生産(連結ベース)ランキングを発表した。一位は二〇〇六年以降連続でアルセロール・ミッタルであるが、二〇〇八年に二位新日鉄との格差が六四〇〇万トンだったのに対し、二〇〇九年には生産量が約三千万トン減少し、二位に中国の河北鋼鉄集団(二〇〇八年に四位)が進出し格差は三三〇〇万トンに減少した。二〇〇九年ランキングの特徴は中国メーカーの躍進で、二〇〇八年には二〇位中七社(宝钢集団三位、河北鋼鉄四位、武漢集団七位、山東鋼鉄九位、江蘇沙鋼集団一〇位、鞍山鋼鉄一七位、馬鞍山鋼鉄一九位)だったのに対して、二〇〇九年には首钢集団、湖南華菱集団の二社が入り九社となった。また、ランキングの順位も上昇した。

日本勢は新日鉄が二〇〇八年の二位から六位、JFEスチールが五位から九位、住友金属工業が一九位から二位へと、鋼材需要不振による減産に加え、中国勢力の台頭もあっていずれもランクを下げた。